

善年

創刊号

発行所

大阪市東住吉区山坂5丁目
11番21号 TEL 06-699-8731

社会福祉法人

愛徳福祉会

肢体不自由児施設における 公私の役割と現状

理事長 梶浦 一郎

社会福祉における公私の役割、責任論は古くて新しい長年の論議であると云われている。多くの内外の社会福祉研究者によって種々の研究がなされているようであるが、その時代の社会情勢、特にニーズの変化、技術革新、経済的な条件などによって変化している。社会福祉研究者でない私がこの問題を論ずる十分な知識はないが、実行者として日頃感じていることを述べる。

戦後各県に肢体不自由児施設が順次設置され、昭和四五年開園の聖母整肢園が最後となり、全国で七三施設となった。

これは肢体不自由児行政での総仕上げであったと云える。戦後生活困窮者に対する生活保護法（昭和二年）からわが国における福祉行政がはじめ

り、児童福祉法（昭和二年）、身体障害者福祉法（昭和四年）が制定され、その基礎ができたと云える。昭和三〇年代以降は高度経済成長期を迎えたが、それが社会福祉に及ぶまでには時間のおくれができ、昭和三五年以降になってやっと福祉行政にその効果が及びはじめた。昭和四一年には医学的、教育的、職業的リハビリテーションを総合した「身体障害者福祉法の改正」についての答申が出され、昭和四五年には「身体障害者福祉施策の推進に関する答申」が出されている。この二つの答申の内容をみると、現

在のリハビリテーション体系のすべてを網羅してはいるものの専門職員と専門施設の質と量の不足が最大の課題であるとされている。つまり、形式的制度としては世界の先進国と同じ水準に達しているが、その実効が伴っていないと云える。このことは丁度時代が高度成長期で、それが福祉に波及しはじめている財政的な余裕のあることと、理念（制度）が先行し内容が伴っていないことが関連して、この時期には、すべてが行政責任においてなされるべきであるとする論議は極めて妥当性があるように見え、一般社会にも十分受け入れられたものであった。（福祉元年、昭和四八年初め）

しかし、一方、昭和四五年には「老人問題に関する総合諸施策」が答申されるなど、すでに近い将来においては老人問題が最大の課題になるとの予見がなされはじめた。

昭和四八年一〇月の第一次オイルショックにはじまる経済低成長時代にはいる頃になると、一方では一般の人々の健康、生きがい老人問題などのニーズの

急速な高まりと多様化は、それまでの伝統的な社会福祉のあり方を検討する必要がでてきたのである。

そのため行政依存型の福祉を脱却し「ばらまき福祉」の批判に象徴されるような無計画な福祉施策の限界があらわになったのである。

ところで障害児福祉関係では、当然「公」の役割として実施されている施策の幾つかを挙げると(1)重度障害児の医療費助成、(2)育成医療、(3)補装具の交付・修理、(4)福祉手当、(5)重症心身障害児介護手当、(6)障害福祉年金などの経済保障。障害児発生予防のための諸施策(母子保健)、施設(母子センター、周産期センター等)。

障害児教育の義務化、各施設の建設補助金などがある。また肢体不自由児施設には医療費助成のほかに保育・教育についての事業費負担がある。勿論、施設最低基準の内容、縦割行政の問題、直接寄附を可能とする免税制度が無いことなど不備な点は多々あるが、障害児福祉としては一応の水準に達している。このこと

は障害児発生率の低下とともに、社会資源の量質においても充足をもたらし、今や施設をそのサービスの内容によって選ぶことのできる時代となってきた。つまり、その施設でどのような高度の専門的ケアが受けられるかによって選択されるのである。

一方「公」が直接施設の運営を行ったときの問題点が種々考えられる。議会のコンセンサスつまり一般住民の了解なしには独創的なことはできない。(昭和四五年当時、方法論が確立しておらず、わが国では始めての試みであったCPの早期治療は公立では不可能であった。また一方、今後老人問題が急増し、出生数が減少すると大多数の目は老人問題に向いてしまうであろう。)その他公的施設では独自で経営努力しても直接処遇の向上にはつながらないし、反対に努力しなくても処遇は低下しない。つまり親方日の丸的発想。そのうえ公的に認められた定員制度は厳重に守られ、必要に応じた弾力的運営はでき得ないなどが挙げられる。この点、今日の私施設の弾力的運営

や真の意味での有効な処遇はたゆみなき実践の評価とそれに基づく創造性からうみ出されたものである。肢体不自由児施設として本園においてもその特性を一層發揮するためにも「私」の役割についての研究は深められなければならない。と同時にわが国が国際社会の中で孤立しては成立し得ないのと同じく、本園も日本全体の社会の流れの中で孤立しては成立し得ないことを銘記するべきではないかと考える次第である。

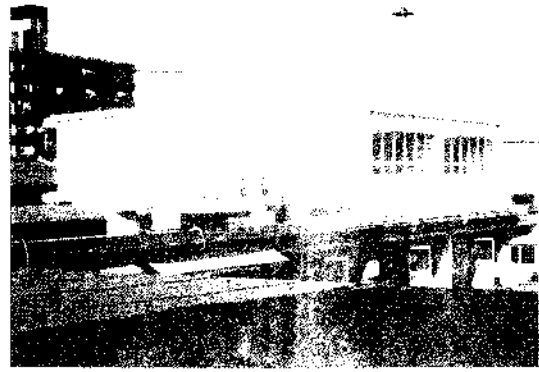
◎施設整備◎

《本園》

かねて指導当局より再三にわたり注意を受けていた厨房の煙突を取替える工事が五月末に完了した。

旧聖母病院発足時に施工された、コンクリート鉄筋入りの煙突も三〇年の風雪に耐えてきたが老朽化し、地震の発生による危険が必至との忠告に従い、全面的な取替えを実施した。できあがった新しい煙突は、ステンレス製で耐用年数五〇

年とのことである。



増築された修理・工作室

財団法人・中央競馬社会福祉財団の、ご協力を得て、北病棟の二階に、一六九・四二の、リハビリテーション機器の修理及び工作室が、四月一日に完成され、主として作業療法士の職員によって、補装具その他、機能訓練に必要な機器の修理・改良・さらに新たな器具の考案等に利用されている。



《あさしお園》
《ゆうなぎ園》

昭和五三年一月、開園から七年が経過し、その間に老朽化した部内と、療育を行うための様々な要望等が職員よりだされ、充分ではないが可能な限りでの補修、改良を五月連休中に施工した。

主な改良部分として

あしとお園

- ①瞬間湯沸器の新調
- ②O・T室常備の洗面台の位置の変更
- ③ハンモックを吊す支柱の新設
- ④その他園の外側の鉄柵のペンキ塗装、シャワーの金具取替え等

ゆうなぎ園

- ①屋上、人口芝の貼替え
- ②物品保管のスチール製 物置の設置
- ③第一訓練室と遊戯室に戸棚を設置



◎訓練部・寺沢 健氏

海外研修より帰国

昭和六一年度(第一七回)海外研修生の募集が、財団法人・中央競馬社会福祉財団より発表され、当園から、理学療法士・寺沢 健氏が応募、審査に合格、更に、筆記試験の英作文、英文和訳、ヒヤリングによる書取りにも見事に合格し、四月五日に、日本を出発し、スイス、デンマーク、オーストリア、西独、オランダにて研修し、七月五日に無事に帰国した。海外で得た貴重な体験を、一度、聴かせてもらいたい。



デンマーク
スクールホームの入所生と

◎給食部・熊沢ツヤ子さん ハワイ・社会福祉事情視察旅行

資生堂社会福祉事業財団が主催する、永年功労者顕彰に応募の結果、全財団の選考にパスし、六月一八日午後二時から、東京・銀座・資生堂パーラーでの、児童福祉施設永年功労者顕彰式に参加し、成田発の日航機で、ハワイに向かい、六月二四日無事帰国しました。



オアフ島
クイリマのパイン畑

◎自衛消防訓練◎

昭和六一年度、第一回の自衛消防訓練が六月二三日午後二時から、本園に於いて、実施された。東住吉消防署警備課から係官・清本消防指令補他一名が来園、防火管理者・丸山事務次長の指揮によって、避難訓練・通報訓練・消火器の取扱方等についての訓練を終了した。清本消防指令補からは、避難訓練・通報訓練・消火訓練の終了時に適切な注意事項並びに指導を受けたが、先ず、大切なことは「園より絶対に火を出さないという、職員一人一人の自覚」を持つことが望まれる。

火の用心

みんなであそぶ園のちとくらし



◎善意の贈呈者芳名◎

左記の方々より 善意の贈呈を受けました。

ここに、感謝の意をあらわし お礼申上ます。

《本園》

61・4・4 ◇金一封川村義肢株式会社様

61・4・21 ◇絵画 西岡 巖様

61・4・22 ◇ジュース他

キリンビール株式会社様

61・4・23 ◇玩具・人形他

大阪府玩具人形問屋協同組合連合会様

61・5・8 ◇魚肉ソーセージ

社団法人日本魚肉ソーセージ協会様

61・5・15 ◇アイスクリーム

近畿アイスクリーム協会様

61・6・10 ◇壁掛時計

大和銀行阿倍野橋支店様

《あさしお園》

61・5・14 ◇金一封

あさしお園父母の会様

61・5・16 ◇金一封 港区善意銀行様

61・4・23 ◇玩具、人形

大阪府玩具人形問屋協同組合連合会様

61・4・23 ◇キリン缶ジュース

キリンシーグラム様

61・5・6 ◇ソーセイジ

日本魚肉ソーセイジ協会様

61・5・15 ◇日産ブルーバードワゴン車

六一年度大阪府共同募金会から購入資

金の助成として、金百万円

《ゆうなぎ園》

61・4・23 ◇キリンカルダモンオレンジ

◇キリンカルダモンライム

キリンピール様

61・4・23 ◇玩具、人形

大阪府玩具人形問屋協同組合様

61・5・6 ◇ソーセイジM九五グラム

日本魚肉ソーセイジ協会様



◎ボランティアとして

お手伝い頂いた方々

その(一) 中学、高校生の勉学の指導を大

阪市立大学・生活科学部の酒井

京子さんに、週一回のボラン

ティアとして来園して頂きまし

た。

その(二) 洗濯場のお手伝いに月二回、山

坂五丁東町会婦人部より、長谷

川照子さん、上井光子さん、森

田フミさんに来て頂いて居りま

す。

その(三) 鶴ヶ丘駅構内のバギー置場の清

掃に月一回

南田辺地区民生(児童委員)協

議会婦人部の岩崎叡子さん他六

名の方々に御奉仕頂いて居りま

す。

◆園内消息◆

四月一日以降、次の方が新しく、当園の職員として、我々の仲間となりました。

先輩諸氏の良き指導を、お願いします。

◆着任 四月一日付

〈北病棟〉

小倉禎子(看) 谷川定子(看) 柿木公子

(准着)

〈二階病棟〉

池田智恵(看) 扇 由香(看)

〈訓練部〉

佐藤 忍(理) 松田富子(理) 松尾 彰

(作) 星野友里(作)

〈給食部〉

奥田美智(栄)

〈本園・通園部〉

村上教子(保)

〈あさしお園〉

前川裕美(保)

◆着任 四月一四日付

〈訓練部〉

渡辺 誠(作)

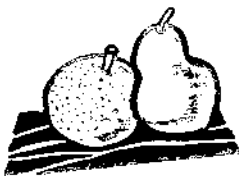
◆着任 五月一日付

〈手術場〉

長井和代(看)

〈北病棟〉

横山美智子(看)



◎編集後記◎

誰もが予想しなかった自民党の大勝で総選挙の幕は降りた。政界では絶対的な安定勢力が生まれたわけであるが、貿易摩擦、円高対策等を要因に、日本経済が安定し、我々の生活が良くなるかどうか、予断を許さないものがある。

昨今の世相と福祉の現状は、経済の低成長と高令化社会への急速な移行という厳しい社会経済情勢のもとにあつて、年金や医療・福祉制度等の福祉施策が次々と見直されて、国の保障は最低必需的部分に止め、あとは各自の自助努力で補え、という方針が強調されるようになってき

◇勤統一〇年表彰

あさしお園

真鍋洋子

五月七日、澤常務理事より表彰状と商品券五万円、特別休暇一〇日が授与された。永年勤続ごころうさま。今後も園のためがんばって下さい。



たのであるが、これから必要なことはこうした施策をみるにつけ、地域の福祉ボランティアの育成が、今後ますます重要なものと思われる。ニーズの増大が見込まれる福祉ボランティアは極端に少ない。物至上主義が横行し「福祉の心」が、我々、日本人から希薄になってゆくことが哀しい昨今でもある。旧聖母整肢園の機関誌「葦」は三号で廃刊となったが、新法人に移行しての「葦」の創刊号である。年間を通じて四回発行の予定であるが、継続して地道に細く長くと念じている。



(事務長)